

## この国の人口減

今年も終わろうとしています。

この一年いろんなことがニュースになりました。天変地異、国政の選挙、著名人の死去、ノーベル賞を3人の日本人がとった、とか。あなたは何を挙げられますか。

当院と大きく関わり、しかも国の見過ごせない変動の一つと言え、ば矢張り昨今、この国の人口減の現状でしょう。

振り返ると戦前の1940(昭和15)年、7200万人だったのが、戦後第1次ベビーブームなどで爆発的に増え、67(昭和42)年に1億人を突破しましたが、やがて死ぬ人のほうが生まれる人より多くなり、08年の1億2800万人をピークに減少し始めました。そして11年からは減少の一途をたどっています。国立社会保障・人口問題研究所の推計では48年には1億人を切り、60年には8674万人になるとしています。さらに民間研究機関「日本創生会議」は40年には全国の約半数に当たる896市町村の存立が難しくなる、との予想すら立てています。一人の女性が生涯に産む子供の平均的な数を示す「合計特殊出生率」は1975年以降、2を切り、05年には1.26の最低から13年で1.43に戻りましたが…。しかし、フランスの2.0や、スウェーデンの1.9と比べても顕著に低いのです。

日本の場合、未婚率の高さ、平均初産年齢の30歳超え、長時間労働の増加、などを考えると、女性の社会進出の是非もこの点から考えても見たくになります。生みやすく、育てやすい環境、生活関連インフラを整えずに女性の管理職の数値目標を立てたり、国会や地方自治体の議員の女性の割合をと言うのは、視点に間違いがないかと考えてみたい年末です。

中には、日本の人口が半分になってもいいんじゃないの？ とおっしゃる方もいますが、人口減の影響は

- 1、経済活動を担う15歳から64歳の数が50年先には半数になり、労働者不足から国際競争に負ける。ために外国労働者を入れると又問題が起きる。
- 2、個人消費も減って行くと、税や保険料の収入も減り、医療、介護、生活保護などの社会保障制度も運営が難しくなる。
- 3、年金は現役世代が高齢者を支える仕組みなので出生率が上がらないと年金額の大規模な切り下げが必要になる。
- 4、現在、国の借金は1000兆円を超えたが、社会保障財源をさらに国債で賄おうとすると国債の暴落、金利の上昇と言った国の財政の危機的事態を生む。

その他、各地方自治体に於いても、教育、上下水道、道路などの行政サービスが低下。空き家が増え、治安や防災面でも社会問題化。山林が荒れ、耕作放棄地が増えます。矢張りそんなことを考えると、出生率はせめて1.9~2.0くらいにはなっほしいものです。

## 平和賞の演説

この12月にノーベル平和賞を受賞したパキスタン人のマララ・ユスフザイさん(17)の授賞式での演説は分かり易いので、その一節を取り上げてみます。

I am very proud to be the first Pashtun, the first Pakistani, and the first young person. (この賞を受ける最初のパシトゥン人であり、最初のパキスタン人であり、最初の若者であることをとても誇りに思います。)

Why is it that country which we call “strong” are so powerful in creating wars but so weak in bringing peace? (なぜ“強国”と呼ばれる国は戦争を起こすのはとても強いのに、平和をもたらすことに弱いのでしょうか。)

Why is it that giving guns is so easy but giving books is so hard? (なぜ銃を与えることはとても簡単なのに本を与えることはとても難しいのでしょうか。)

Why is it that making tanks is so easy, but building schools is so difficult? (なぜ、戦車を作ることは簡単なのに学校を建てることは難しいのでしょうか。)

マララさんのために影が薄くなった同じ平和賞を受賞したインド人のサティアルティさん(60)の演説にはすごさがありました。一節だけ紹介します。

Twelve years ago, a child-mother from the streets of Colombia ... trafficked, raped, enslaved... asked me this; “I have never had a dream. Can my child have one?” (12年前、コロンビアの路上で人身売買され、レイプされ、奴隷にされた年端もいかない母親が私にこう聞きました。“私は夢を持ったことはありません。私の子供は持てるでしょうか”)

これらの国の人々から比べると、私たちの国、日本がいかに平和で、自由で、幸せで、豊かであるか、思いを致したいものです。

... ..

《あ と が き》 1) 気象庁の予報は12月に入ってから日本海側、或いは北陸地方は暴風、豪雪注意と盛んに怖がらせていたのに、当地は殆どその恐れなく過ぎています。ありがたいことです。

2) 当院、ミニギャラリーは27日(土)から山本美代子さん(若狭町小原)の押し花です。丹精込めた作品をお楽しみ下さい。

3) 12月22日、院内の託児所にサンタクロースが子供たちにプレゼントを持って現われました。今年も誰も泣かずに喜んでくれました。(サンタは事務の福居さんです。)

